

2013年1月28日

## オムロン基金プロジェクトによる研究プロジェクト申請書

申請者

所属 ビジネス研究科

氏名 村山裕三

1 研究プロジェクト名	「友禅宇宙キモノ」による伝統産業の新たな地平の創出
2 研究メンバー	「伝統産業グローバル革新塾」担当教員 村山裕三（リーダー、DBS 教員） 大久保隆（DBS 教員） 浜矩子（DBS 教員）
3 研究目的	<p>「伝統産業グローバル革新塾」（「革新塾」）は、2007 年度に文部科学省の助成金を受けて始められたプロジェクトで、京都の伝統産業の若手経営者へのビジネス教育を通じて、次世代を担える伝統産業の経営者を育成し、これにより、京都の伝統産業を活性化させようとする目的を持って発足した。「革新塾」は、京都の伝統産業を活性化させる産学連携プロジェクトであり、オムロン基金プロジェクトの（7）京都及び関西地域における産学連携、地域活性化等の推進、をめざしたプロジェクトである。</p> <p>当プロジェクトは、2009 年度からはオムロン基金の助成を受け、京都の伝統産業のグローバル化をめざして、2009 年 11 月にはパリで「京都の赤展」を開催するなど、内外で様々な活動を企画、実施した（2007-2012 年における「革新塾」の活動については、『伝統産業から文化ビジネスへ：「伝統産業グローバル革新塾」の 5 年間』（マリア書房、2012 年）を参照）。そして、2013 年 3 月末に、「革新塾」メンバーを中心にして「株式会社COS KYOTO」を大学発ベンチャー企業として設立するまでに至った。</p> <p>一方、当プロジェクトは、2007 年より、宇宙航空研究開発機構（JAXA）とコラボレーションを行い、伝統産業の活性化の取り組みを行ってきた。ここでは、宇宙と京都の伝統産業のコラボレーションの意義に関する研究とともに、宇宙素材を使った製品開発を行い、お守り「アミ</p>

	<p>レット」などのヒット商品も生み出した（「革新塾」の宇宙分野における取り組みについては、『伝統産業から文化ビジネスへ』第4章を参照）。</p> <p>「革新塾」の宇宙プロジェクトは、2010年3月に正式にJAXAの文化・人文科学利用パイロットミッションに採択された。これは、「赤色」でつなぐ宇宙と伝統文化」と題されたプロジェクトで、友禅染の桜の花びらを無重力の宇宙空間で飛翔させ、これを3Dカメラで撮影して記録し、これを新たな伝統産業のデザイン素材とする試みである。この実験は、2012年2月2日に国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」の船内で実施され、宇宙に漂う桜吹雪の3D撮影に成功した（この取り組みの詳細については「京の伝統に新風を吹き込む「きぼう」に舞う桜吹雪」（『JAXA 'S』2012年11月号、を参照）。そして、この映像をベースにした友禅着物の基礎デザインが作成された。</p> <p>申請プロジェクトは、この基礎デザインを使って、宇宙桜吹雪の友禅キモノを完成させて広く社会に発信し、京都の伝統産業の新たな地平を示すとともに、低迷する業界に刺激を与え、その活性化の一助とする目的を持つ。</p>
4 研究計画	<p>2013年6月1日に京都、大徳寺で開催される「音禅法要」において、完成させた「宇宙友禅キモノ」を披露する。この「音禅法要」は、日本を代表するミュージシャン、コンポーザーであるツトム・ヤマシタ（米ジュリアード、バークレー音楽院で勉強後、小澤征爾、武満徹などと共演、その後、スティーブ・ウインウッドやアル・ディメオラなどとロック・フュージョングループを結成するなど幅広い音楽活動を国際的に展開、現在は、サヌカイトという日本古来の石を使った音楽を手掛ける）が取り組んでいるプロジェクトで、彼が演奏するサヌカイト音楽をベースにして、宗教、音楽、科学の融合をめざす目的を持つ。また、海外からの音楽家も参加し、東洋と西洋を結ぶ試みとしても注目されている。</p> <p>この「音禅法要」に、本年度は「革新塾」の宇宙プロジェクトが参加し、JAXAの画像・映像やお香を使って法要に宇宙的な要素を持ち込むとともに、ツトム・ヤマシタの衣装を「宇宙友禅キモノ」でデザインし、サヌカイトの演奏時に着用してもらおう。また、「宇宙友禅キモノ」の背景を説明した冊子を「音禅法要」の参加者や関心を持つ団体に配布することにより、本プロジェクトの意義と「宇宙友禅キモノ」のデザインを内外に向けて発信する。</p>
5 期待される成果	<p>「音禅法要」には、多分野の著名人が集まるイベントとなっている。過去の「音禅法要」には、辻野晃一郎（元グーグル日本社長）、中條高</p>

	<p>徳（アサヒビール特別顧問）、曾根綾子（作家）、内館牧子（脚本家）、吉行和子（女優）、Peter Reis（エール大学芸術学部教授）、George St. Andrews（英国伯爵）などの多彩な顔ぶれが参加している。というのは、「音禅法要」自体が、多分野の人びとが集い、この中から新たな創造性を生み出す「場」とする狙いがあり、年齢的には学生のような若年層から年配層、職業的にはアーティストから実業界までの広い層、地理的には日本では関東、関西地域、海外からも欧米を始め、アフリカや中東からも人が集まる仕組みとなっている。</p> <p>このような「場」で、「友禅宇宙キモノ」を発表することは、幅広い層に本プロジェクトの成果や意義を伝えて、京都の伝統産業の新たな可能性を示すとともに、参加者の中から将来、「友禅宇宙キモノ」とコラボレーションできる人や団体を見つけ出す可能性も秘めている。</p>
<p>6 研究成果の発表方法</p>	<p>2013年6月1日の「音禅法要」による作品披露と本プロジェクトの詳細を説明した冊子により、成果を発表する。</p>